



森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう



■表紙写真 題名：「修復工事」 撮影地：周智郡森町三倉 撮影者：鈴木 信子氏（森町）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。

URL : <https://www.moritohito.jp>



INDEX

2 支部だより①（三島市 農と食のまちづくり課）
森林環境譲与税を活用した三島市の取組み

3 支部だより②（浜松市林業振興課）
ヒトとして、林業に携わる者として、カモシカと向き合う

4・5 事業体等紹介No.20（戸田森林組合）
持続可能な森林管理で森林を未来につなぐ

6 森林・林業研究センターだより No.94
フィールドサインによる加害動物の判別

7 令和6年度県森林・林業関係主要予算の概要
（静岡県）

8 本部情報
林業イノベーションの推進
林業への就業支援（令和6年度予定）
しずおか森林写真コンクール作品募集

支部 だより ①

森林環境譲与税を活用した 三島市の取組み

三島市 農と食のまちづくり課

森林環境譲与税を活用した森林整備などの取組について紹介いただきました。

はじめに

三島市は、富士箱根伊豆国立公園（箱根地域）の西の玄関口に位置し、西に愛鷹山麓、東に箱根連山が控えています。そのため、総面積の約3分の2を山間丘陵地帯が占め、さらに森林の大部分は箱根西麓に位置しています。

市の北部には日本一の富士山がそびえ、市内各所からそのすばらしい雄姿を眺めることができます。また、霊峰からの雪解け水は街中に湧き出て、「源兵衛川（世界かんがい施設遺産・世界水遺産）」を代表とする清らかなせせらぎを形成しています。

当市の森林の大部分を占める箱根西麓は、元々森林の無い地域（草刈り場）で、昭和15年に植林を開始し、昭和27年に「植樹祭」が挙行されて以来、植林が急速に拡大し、現在に至っています。この地域には、国指定史跡である山中城跡公園、三島大吊橋「MISHIMA SKYWALK」があり、多くの観光客が訪れています。また、味と品質の高さから首都圏へ多く出荷されている「箱根西麓三島野菜」の産地となっており、これらの景観や歴史・文化と調和するよう、周辺森林の整備・保全が求められています。

森林の現状

三島市の総面積6,202haのうち森林面積は2,313haであり、森林率は37.3%となっています。

その内、ヒノキを主体とした人工林は1,605haと、大部分を占めています。

人工林の約90%は46年生以上で占めており、資源として十分成熟しておりますが、近年の森林所有者の経営意識の低下により、十分な整備が行われず間伐などの手入れが不足した森林が増加しています。

森林環境譲与税を活用した森林整備

前述した、森林の現状を改善していくために、三島市では森林環境譲与税を活用した取組を行っています。令和2年度と3年度には、森林経営管理制度を活用した森林整備の全体計画となる三島市森林整備方針を策定しました。これは、森林経営計画が作成されていない森林を中心に、制度による森林整備を優先的に実施する必要がある森林を選定した期間15年の計画となります。三島市では、この計画に基づき、優先順位をつけた森林について、初年度意向調査を実施し、2年目に集積計画をたて、整備が必要で集積計画を策定した森林について、3年目に間伐を実施しています。令和5年度は約19haに対



▲整備後の森林

しての意向調査及び約12haの集積計画の策定、約6haの間伐による森林整備を実施しました。

その他の取組

制度を活用した森林整備の他には、新たに森林経営計画をたてて施業の始まる地区の林道の補修整備や、NPO法人が実施する森林環境教育事業、市立少年自然の家へとつづく林道の木製ガードレール化事業も継続して実施しました。



▲補修後の林道



▲森林環境教育の様子



▲木製ガードレール

令和6年度からは、森林環境税の賦課が始まり、森林環境譲与税を活用した各事業につきましてもいよいよ本格的になります。三島市においては新たに、木育・地育推進事業として、1歳半になるお子さんに市産材の木製おもちゃを配布して木の大切さ、木材の良さをアピールしていきます。

支部 だより②

ヒトとして、林業に携わる者 として、カモシカと向き合う

浜松市 林業振興課 星川翠

カモシカ捕獲の課題やカモシカとの共生に向けて感じていることなどついて紹介いただきました。

動物好きの私にとって、カモシカの捕獲の担当をするのは、ちょっとした試練だった。しかし、カモシカという動物やその境遇についてきちんと知り、林業との共存、ヒトとの共生について考える良い機会となった。

カモシカ捕獲の変遷

カモシカは正式な種名をニホンカモシカと言い、本州、四国、九州に生息するウシ科の大型哺乳類である。かつては狩猟の対象であったが個体数が著しく減少して絶滅が懸念され、1925年に狩猟獣から除外された。その後、1955年に特別天然記念物に指定されたことや、拡大造林に伴う餌資源量の増加などにより、次第に個体数が回復し分布が拡大した。一方で、1970年代以降、林業被害が大きな問題となっていく。こうした背景から、現在は被害発生地における捕獲（個体数調整）が限定的に認められている。

カモシカによる林業被害と防除方法

カモシカは落葉広葉樹の新芽や若芽を好んで食べる。この傾向は、どの地域に生息する個体群でも同様であり、カモシカが元来ブナ林のような落葉広葉樹の森を中心に生息する種であることを裏づけている。

しかしながら、前述のとおり、カモシカ個体数の増加に伴い、1970年代以降、中部地方を中心とした地域で林業被害が顕在化していった。カモシカによる

林業被害は植林後10年生までのスギ、ヒノキ等針葉樹で多く発生し、幼齢木の葉部に対する採食によって引き起こされる。通常は枯死に至らないが、頂芽の採食を受けると成長量の低下や樹形の変化を引き起こし、木材としての価値を著しく低下させる。

カモシカによる食害を防除する方法としては、防護柵を林地境界に設置する方法、ツリーシェルターを設置する方法、忌避剤を散布する方法などが一般的である。

カモシカの捕獲と課題

本市を含む一部の地域では捕獲（個体数調整）も実施されているが、実施する場合は管理計画を作成し、鳥獣保護管理法に基づく捕獲許可と、文化財保護法に基づく現状変更許可を得る必要がある。ただし、カモシカは捕獲圧に対して脆弱な側面を持っている。そのため、捕獲事業は慎重かつ厳格に運用するとともに、継続的に捕獲が個体群に与える影響についてモニタリングし続ける必要がある。

加害獣の判別も課題である。つまり、食害が本当にカモシカによるものなのか、シカではないのか、正確に判別し錯誤捕獲とならないよう留意しなければならない。食痕のみからカモシカとシカを識別することは困難である。糞粒の数により見分ける方法も知られているが（カモシカの排泄1回当たりの糞粒

数は約200～360粒。シカは約90粒。）フィールドサインのみで加害獣を判別するには誤判別のリスクが否めない。近年では、自動撮影カメラを用いる方法のほか、食痕から唾液由来のDNAを検出する判別手法も開発されている。本市においても自動撮影カメラ及びDNAによる判別手法を試行的に行ってみたところ、有効性が確認された。

カモシカとの共生に向け

ヒトはみな、自然を利用しながら生きている。中でも林業は、自然のすぐそばで、自然の恩恵を受けながら行う産業なのだから、野生動物を最大限に尊重しつつ、共生する方法を探っていくべきだろう。捕獲（個体数調整）に関しては、防護柵等による一般的な防除を行った上でもなお被害があるなど、どうしても…という場合のみ行うべきだろう。また、誤判別による錯誤捕獲はあってはならないし、個体群動態には常に敏感であるべきだ。

カモシカが餌として好む広葉樹を増やす取組も重要だろう。現在“カモシカのために”積極的に行われている取組は特にないと推測されるが、人工林においては間伐・枝打ちにより下層植生を増やすこと、荒廃林の針広混交林化を進めること、もちろん今ある広葉樹林を保全すること。こういった取組が少しでも進み、カモシカとヒトとの共生の一助になればと願う。

参考文献
文化庁文化財第二課、カモシカ保護管理マニュアル（改訂版）、2022。

事業取材

● No.20

持続可能な森林管理で 森林を未来につなぐ

戸田森林組合

SGEC認証基準による管理、将来に向けた資源造成のための森林の若返り、タワーヤーダの導入による施業など、持続可能な森林管理に取り組む戸田森林組合を取材しました。

美しい海とすぐ近くにそびえ立つ山、岬には立派な松が立ち、美しい景観で溢れる沼津市戸田地区。この地域の山の手入れを担っているのが戸田森林組合です。令和3年度にはタワーヤーダを導入し、車両系による木材搬出作業の多い静岡県において架線系施業の実績を着実に積み上げてきています。



▲導入したタワーヤーダ

地域の森林を未来へ繋ぐために挑み続ける姿勢と想いを、専務理事の山田修一氏と業務部長の木立治氏に取材しました。

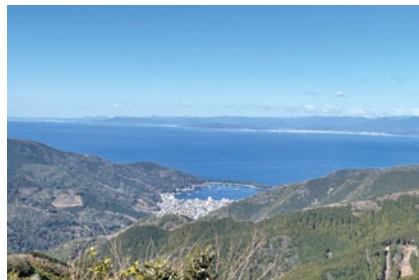


▲山田さん(左)と木立さん(右)

組合概要

戸田森林組合は昭和27年に設立され、沼津市戸田と井田地区の豊かな森林を管理しています。この地域の森林は災害防止や水源涵養に加えて豊かな海を育むなど、重要な役割を果た

しています。森林面積は約3,000haで、そのうち約1/3が沼津市有林と、市有林の割合が非常に高い地域です。沼津市有林のうち958haについて、組合は沼津市と「森林管理委託に係る協定」を結び、森林認証制度 (SGEC) に基づいた森林管理を市から委託されています (958haの内644haがスギ・ヒノキ等の人工林)。



▲警女展望地から望む戸田地区

施業に係る費用については業務委託の形で契約を結び、丸太の売上や補助金の受け取りは沼津市となります。出材する現場は市有林で、私有林については森の力再生事業など捨て切り間伐の施業が主になっています。毎年、皆伐を3ha前後 (2カ所)、搬出間伐を6～10haと捨て切り間伐等を約30ha行っており、出材量は年間2,000m³前後です。

皆伐施業の開始

平成19年より利用間伐を始め、車両系で木材搬出作業を行ってきました。成長の良い所ではすでに2回目の間伐作業に入っています。そして、未利用森林の活用と高齢級の森林の若返りや樹種転換を図ることを目的に、平成27年からは皆伐を開始しました。最初はタワ

ーヤーダをレンタルして施業に当たりました。真城エリアは風が強く、木の成長も良くないため、生物多様性の観点から皆伐後に山桜を植えています。「次世代に森林を繋げていくには、今のままよりも更新してより良い森林にしていこうという考えで行っています」と木立氏は述べます。もちろん、樹種転換しない場所については再造林が行われています。地形的に風が強く、ヒノキは高さが伸びず、枝が張り、二股になる等、適地は少なく、スギが適しているようです。

植栽したエリートツリーのスギ苗は初期の成長が非常に良く、年間50cm以上も伸びる為、下刈りは2回、場所によっては1回で済むこともあります。コンテナ苗を使用し、安定的に活着していることから、コストを抑えて更新ができています。しかし、シカ柵の設置は必須です。杭打機「ビーバー」を導入し、シカ柵設置の効率化を図っています。シカが柵内に入ってしまうことはありますが、獣害の巡視業務も含めて沼津市から業務を受託するため、定期的に巡視を行い、入ってしまったシカを追い出す等の管理も行っています。

タワーヤーダ導入による 架線系施業

令和元年にはラジキャリー、令和3年にはタワーヤーダを導入し、架線による小規模皆伐をコンスタントに施行していける体制を整え、実践してきました。施業地の地形条件等を踏まえ、タワーヤーダはイワフジ工業株式会社のTY-U3B型を採用しました。自走式で、車幅が狭いため小回りの利くタイプです。3年間にわたり組織力向上研修を継続し、技術力の向上と知識を深めて来ました。



▲タワーヤーダ設置



▲タワーヤードによる集材状況

架線系による木材搬出は、林道沿いにもかかわらず急峻な地形のため作業道の敷設が難しい場所を中心に施業を進めています。植栽後の管理も容易で、環境への負荷が少ないように、1箇所の面積にして1~2ha前後の小規模な皆伐を行っています。架線の距離は平均して約200m弱です。

実際の現場を拝見しました（取材時は皆伐を終え、植林を行っていました）。上げ荷集材の場合、タワーヤードと同じ高さではグラップルが丸太をキャッチしにくいので、少し作業道を入れ、一段下の位置でキャッチし、玉切り後、フォワーダで土場まで運ぶ流で施行を行っていました。伺った現場は3エリアに分け、3架線を張り替えて行われました。横取りが多くなればなるほど時間がかかります。また、すり鉢状の地形であれば木の根元部をアンカーに利用できますが、それでは木の上に登って線を張らなければなりません。地形によって作業効率が大きく変わるため、計画段階での検討が非常に重要になっています。



▲皆伐施業地の状況

作業中は、タワー操作1人、上がった丸太を処理する1人、荷にワイヤーをかける人1人の3人体制で行われています。1人あたりの出材量であれば、車両系の倍ほどの労力がかかっているため、2人でやれる作業シス

テムの構築に取り組んでいます。静岡県内で架線集材を行う事業体は希少ですが、戸田森林組合が経験と知識を積み重ね、将来的には架線集材のフロントランナーとして県内の林業業界を引っ張って欲しいです。

森林技術者について

戸田森林組合の森林技術者は6名の1班体制で、年代は30代が2人、40代と50代が各1人、60代2人となっています。現状のメンバーはバランスが良いものの、若手の増員が難しい状況です。首都圏からの移住者は、林業地として有名な天竜地域や住環境や趣味の面から東・南伊豆地域を希望する傾向があり、戸田地域に定住したいという人をもっと確保したいと希望しています。現在の6人の作業員のうち、最も長い勤続年数は約15年であり、林業経験が5年未満の方が2人います。組合全体として、皆で考えながら、林業についての深い知識と経験を積み上げている状況です。

林業を始めて4年目という大川宏大さんは林業の印象について次のように話してくれました。「林業は入社前に想像していたよりも危険だと感じましたが、伐倒した時は気持ち良くて楽しいです。自然の中で、他では経験できないことができることは魅力だと思います。」大川さんは内浦出身であり、戸田森林組合に就職したきっかけは知り合いの紹介でした。



▲大川さん

同じく、3年前からリーダーとして活躍される班長の野田雄大さんは戸田出身で、ご親族からの紹介が就職のきっかけであると述べています。戸田森林組合では地縁や人脈による就職が多いようです。木立氏は「働きたいと思ってもら

える企業になるには、まず今働いている自分達が幸せになることだと思っています。」と言います。自分達の幸せを追求する姿勢は、組合の将来を見据えた素晴らしい志だと感じられます。

組合が目指すもの

班長の野田さんは、「自分たちが伐った木が形に残るとやりがいのなる」と話してくださいました。「市場に出してしまうとその後どうなったかわからないですが、最近は戸田小中一貫校へ寄贈したロッカーや、道の駅くら戸田の柱、県東部農林事務所所長室のテーブルなど、伐った木が形として残っているものを見ることができ、感慨深いものを感じます。やりがいにつながりますね。」こういった活動は、森林技術者の皆さんのモチベーション向上だけでなく、地元の住民に対する良いPRにもなります。



▲班長の野田さん

戸田森林組合が目指すことについて尋ねると、木立氏は次のように答えました。「まずは戸田の人たちに、私たちが戸田に必要な組織だと感じてもらうことが1番必要なことだと思います。」林業は山の中での活動が主体であり、なかなか住民の目に触れることがありません。このため、道路沿いの森林整備、子供達を対象とした体験学習や当組合が管理するキャンプ場での催しの開催、道路わきに投棄されたごみの片付けなども地道に行っています。

地域の森林を世界的な認証基準で適正管理し、加えて10年、20年先の持続的な雇用を生み続け、地域を活性化することが戸田森林組合の目標であり、目指すべき姿なのです。戸田森林組合のますますの活躍が期待されます。

フィールドサインによる 加害動物の判別

森林育成科 大橋 正孝

森林・林業研究センターからは、野生生物による被害について、最近の発生状況や加害動物を見極めるポイントなどについて紹介していただきました。

はじめに

森林・林業研究センターには、毎年野生動物による被害について様々な問い合わせが舞い込んできます。被害対策に取り組むには加害動物を見極めることが大前提になりますが、誤認して対策が後手に回り、解決までに時間が掛かってしまうことも少なくありません。そこで今回は、問い合わせや当センターの調査結果を元に県内で発生している被害と加害動物を見極めるポイントなどについて報告します。

防除ネットに穴を開けるノウサギ

最近、被害の報告や問い合わせが増え、今後深刻化が予想されるものとして新植地におけるノウサギによる被害が挙げられます。ノウサギは広食性で多種類の植物を食べ、スギ・ヒノキの苗木への嗜好性はそれほど高くありませんが、地覆植物が少ない時期での植栽では、食害が集中するため、甚大な被害となります。また、鋭利な切歯でシカ・カモシカ用の防除ネットも切断して穴を開けてしまうため、そこから侵入したシカやカモシカに残存した苗木まで食害されるなど、柵の補修が必要なより深刻な被害が発生しています。



▲写真1 ノウサギの食べ痕(左)とシカ・カモシカによる食べ痕(右)

これまでの試験研究でノウサギの骨格寸法や切歯の硬度計測、効果実証試験などから、この対策には①網目が5cm前後と細かく②硬いステンレス線を編み込んだネット等で③地際から80cm程度の高さまで防除(既存ネットに追加する場合は外側に設置)することが効果的であることが分かってきました。このため、ノウサギの生息や被害が確認されている地域ではこれを反映した対策が望まれます。なお、主伐・再造林地では、地拵えした林地残材等の中にノウサギが潜んでいることがあるので、生息の有無を確認してから柵を設置する必要があります。

ノウサギの生息の有無を確認しやすいフィールドサインは、植物への食べ痕と糞です。上顎と下顎の両方に鋭い切歯を持つノウサギの食べ痕は、断面が鋭利なナイフで切ったようになり、上顎に歯がないために引きちぎったような食べ痕になるシカやカモシカと区別ができます(写真1)。また糞は茶褐色で基石のような形状をしていて、黒っぽい緑色で俵形状のシカやカモシカの糞との区別が可能です。

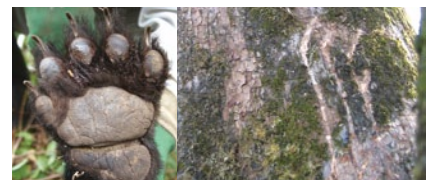
クマと間違えやすいシカの角研ぎ痕

昨年度は、全国的にクマの人里への出没が多発し、県内でも10月中旬以降、過去に類を見ないペースで目撃情報が寄せられました。このような中、特に県中西部の下流側の地域からヒノキなどの樹皮が大きく剥がされ、えぐったように毛羽立った傷痕が残る被害が報告され、クマによるものでは

ないかとの問い合わせを多数いただきました。現地の調査や写真により確認したところ、いずれもオスジカの角研ぎによる痕でした(写真2)。クマの爪痕は、指爪が1cm以上の間隔でほぼ横一列に並ぶ前掌の構造から平行で交わらないのが特徴です(写真3)。シカの分布拡大地域では、先にオスが侵入した後にメスも交じり定着することが報告されています。このため、シカの生息情報がなかった場所で角研ぎが確認された地域では、情報を共有し、シカが定着して増えてしまう前に捕獲圧を掛けたり、防除方法をシカにも有効な方法に見直すなど、早期に対策に取り掛かることが重要です。



▲写真2 オスジカによる角研ぎ痕(左:ヒノキ、右:広葉樹)



▲写真3 クマの前掌(左)と爪痕(右)

おわりに

このように野生動物の出没や被害は、徐々に増えていく場合や突然発生するもの、年によって急増するものなど様々です。県内の野生動物の生息状況や被害の変化にいち早く気付き迅速な対応に繋げられるよう、各地域の森林で働く皆様からの情報収集に努めるとともに試験研究と研究成果の発信、研修なども行っていきたいと考えています。見たことのない被害や動物の痕跡を見かけたときは、大きさがわかるものなどを隣に添え、ピンボケしないように角度を変えて何枚か写真を撮り、試料などがあればこれも添えて照会いただくと判別がしやすく幸いです。今後も皆様の協力をお願いいたします。

令和6年度 県森林・林業関係主要予算の概要（静岡県）

令和6年度の森林・林業関係予算は、一般会計で総額133億円と決定し、昨年度と同程度の予算規模となりました。

森林資源の循環利用による林業の成長産業化に向け、林業分野への先端技術の現場実装等を図る「FAOIプロジェクト推進事業」や、県産材の安定供給に必要な路網整備等を支援する「県産材安定供給生産基盤事業」等により、県産材生産の効率化に着手に取り組んでいきます。また、森林の公益的機能の維持・増進に向け、荒廃森林の再生を図る「森の力再生事業」、中東遠地域における“ふじのくに森の防潮堤づくり”を進める「豪雨等災害対策緊急事業」、森林整備アドバイザーの派遣により市町を支援する「市町森林整備実施体制等支援事業」等により、森林の適切な管理・整備を計画的に行うとともに、近年注目が集まるJ-クレジットについても、「ふじのくにカーボンクレジット創出事業」により、創出支援に取り組んでいきます。

一方で、本県民有林では、小規模・分散している森林の集約化が依然として大きな課題となっていることから、「木材生産加速化（担い手育成型）モデル事業」を創設し、所有者との合意形成から作業道整備や間伐までをパッケージで支援します。併せて、県産材需要の確保に向け、「間伐材等搬出奨励事業」をリニューアルし、未利用材の搬出を促進するとともに、「住んでよし しずおか木の家推進事業」では、非住宅建築物への木造化等に対する助成限度額の拡充や設計に対する助成制度の創設により、需要拡大が見込まれる非住宅建築物への県産材利用を促進します。

また、南アルプスの環境保全では、「南アルプスユネスコエコパーク10周年関連事業」を実施するほか、野生鳥獣対策等の諸施策に取り組みます。

令和6年度 森林・林業関係主要予算

（単位：千円）

部局名	担当課	事業名	R6当初予算	部局名	担当課	事業名	R6当初予算
経済産業部 森林・林業局	森林計画課	FAOIプロジェクト推進事業費	108,200	経済産業部 森林・林業局	森林保全課	保安林整備事業費	21,402
		森林整備事務費	68,000			林地開発許可制度実施事業費	9,229
		市町森林整備実施体制等支援事業費	47,900			盛土緊急対策事業費（森林）	367,000
		森林・林業再生推進事業費	11,530			治山事業費	1,251,000
		森林認証取得促進事業費	2,000			緊急治山事業費	501,000
		森林・林業関係団体事業費助成	17,760			林地崩壊対策事業費	3,000
		森林環境整備促進基金積立金	231,087			国直轄過年度災害治山事業費負担金	39,000
		次世代林業基盤づくり交付金事業費	72,700			国直轄治山事業費負担金	420,000
		農山漁村地域整備交付金事業費（森林）	1,229,000			県単独治山事業費	727,000
		森の力再生事業費	1,324,000			県土強靱化対策事業費（治山）	450,000
		県単独森林整備事業費助成	26,843			豪雨等災害対策緊急事業費（治山）	520,000
		エネルギー政策課 ふじのくにカーボンクレジット創出支援 事業費（森林関連）	(1,200)			現年災害治山施設復旧費	888,000
						現年単独災害農林水産復旧費	15,000
		森林計画課 計	3,139,020			森林保全課 計	5,211,631
						森林・林業局 計	11,998,522
	林業振興課	県産材販路拡大事業費	2,453	交通 河川砂防局	砂防課	治山地すべり防止事業費	185,000
		住んでよし しずおか木の家推進事業費助成	200,000			県単独地すべり防止事業費	74,000
		林業を支える元気な担い手支援事業費	10,500			豪雨等災害対策緊急事業	98,000
		ビジネス林業等担い手確保育成事業費	83,000			災害関連緊急治山地すべり防止事業費	65,000
		林業振興総合推進費	8,274			砂防課 計	422,000
		森林を守り育てる人づくり推進事業費助成	6,000			河川砂防局 合計	422,000
		中山間地域林業整備事業費助成（就業機会創出）	14,000	環境部 環境局	環境政策課	環境関係団体事業費助成	4,100
		原木しいたけ生産力増強対策事業費助成	33,875			環境政策課 計	4,100
		林業振興課 計	358,102		環境ふれあい課	自然ふれあい施設管理運営費等	187,950
	森林整備課	木材生産加速化（担い手育成型）モデル事業費助成 ※	50,000			県民参加の森づくり・緑化推進事業費	8,579
		県産材安定供給生産基盤整備事業費助成	150,000			県有林管理事業費	40,945
		間伐材搬出奨励事業費助成	151,000			30by30推進事業費 ※	11,500
		しずおか林業再生プロジェクト推進事業費	35,000			グリーンバンク事業費助成	70,000
		県単独森林病虫害獣総合対策事業費	30,631			芝生文化創造プロジェクト事業費	6,320
		資源循環林地整備事業費	56,440			環境ふれあい課 計	325,294
		造林事業費	692,000		自然保護課	自然環境保全総合対策事業費	7,373
		森林地域活動支援事業費	5,481			野生生物保護管理推進事業費	33,358
		森林整備地域活動支援基金積立金	17			野生鳥獣緊急対策事業費	320,000
		県営林道整備事業	404,000			生物多様性推進事業費	28,300
		団体営林道事業費	52,000			富士山環境保全推進事業費	14,451
		県単独林道事業費	321,000			元気な浜名湖づくり推進事業費	3,818
		集落間林道整備事業費	84,000			南アルプスモデル推進事業費	45,100
		中山間地域林業整備事業費（山村道路網整備）	129,000			南アルプス生態系保全事業費	25,800
		主伐型路網構築モデル事業費助成	83,000			南アルプス魅力発信事業費	17,000
		社会環境基盤重点林道整備事業費	64,000			南アルプスユネスコエコパーク10周年連携事業費 ※	4,000
		団体営過年度災害林道復旧費	564,000			南アルプス環境保全基金積立金	15,000
		現年災害林道復旧費	2,000			自然保護課 計	514,200
		団体営現年災害林道復旧費	415,000			環境局 合計	843,594
		森林整備課 計	3,288,569			森林・林業関係予算 合計	13,264,116

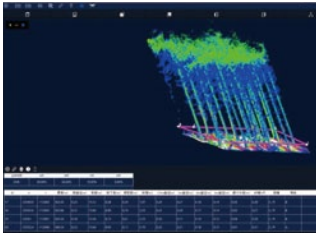
（ ）は森林計画課の計には含まない ※ … 新規事業

本情報

林業イノベーションの推進

レーザー計測やドローン、デジタル技術など、新しい技術を活用して施業の省力化や安全性向上などを図る「林業イノベーション」。
こうした技術を現場導入して普及するには、実際に見て、試すことが重要ですので、山林協会では、新技術の実用化や普及を図る地域協議会の取組を、令和2年度から「林業イノベーション推進事業」によりサポートしています。

【令和5年度の取組支援状況】

志太榛原地域			富士地域
森林調査アプリを活用した森林調査の省力化の実証	バックパックレザ計測を活用した森林資源情報解析の実証	大型ドローンによる資材運搬の実証	無人造林機械による地拵え
			

今年度も各地域の取組支援を予定しますので、新技術の実用化を目指す取組があれば御相談ください。

https://www.moritohto.jp/pdf/about_12.pdf

林業への就業支援（令和6年度予定）

当協会では、県の委託を受けて、林業への就業支援に関する事業を実施しており、今年度は以下のとおり予定しています。

募集などについては、実施前に、しずおか林業就業支援サイト「森林(もり)ナビ」や当協会ホームページでお知らせしますので、ご確認ください。

<https://www.morinavi-shizuoka.net/>



もり 森林の仕事ガイダンス	林業への就業を希望する方を対象とした就業相談会です。求人を行う林業経営体などが会場で相談に応じます。県内各地で計4回(7/20中部、8/3東部、10/14中部、1/18西部)を予定しています。
もり 森林の仕事見学会	森林での伐採作業や木材市場、製材工場などを見学します。 9月と11月の年2回を予定しています。
林業の仕事インターンシップ	県内の林業経営体において、10日間を上限として、林業の仕事を体験します。 6月頃から参加者を募集する予定です。
林業就業支援研修	県内林業経営体への就業内定者などを対象とした8日間の研修です。チェーンソーや刈払い機の取扱いなど実地を中心にを行います。10月頃の年1回を予定しています。

第41回しずおか森林写真コンクール作品募集

森林や林業の素晴らしさ、大切さなどを広く知っていただくことを目的とした写真コンクールで、右記の作品を募集しています。締め切りは8月31日。山林協会のHPにある応募方法等を御確認の上、奮ってご応募ください。

<https://www.moritohto.jp/wp/wp-content/uploads/2023/08/41.pdf>

- ① 森林の景観
- ② 林業・木材産業で働く人の姿
- ③ 造林、育林、木材生産の風景
- ④ 治山や林道など森林土木施設や工事の風景
- ⑤ 森林・林業体験や森林でのレクリエーションの風景
- ⑥ 森林と一体となった山村や生活の風景
- ⑦ 豊かな森林が持つ「森の力」を感じる風景